関西自然保護機構会報 *20*（*2*）：*123－132, 1998*

自然観察から始まる自然保護
市民の活動現場からの体験談

みのお山自然の会事務局長　本　多　　孝

NATURE WATCHING LED TO NATURE CONSERVATION : PERSONAL EXPERIENCE

Takashi HONDA

はじめに

この投稿を書くに当たって次の２つの事を織り交ぜながら専門家や研究者でない市民の自然保護活動についてまとめることにします。

一つ目は

私が活動している理念の基礎をなしているのは，財団法人日本自然保護協会（NACS－J）自然観察指導員としてです。NACS－J は，自然保護教育を進める自然観察会のリーダーを養成する為に自然観察指導員講習会を開催しています。

自然保護教育は，様々な場面で行うことがあります。講演やスライド上映，ビラなどの配布物などいろいろな方法で自然保護教育が行われますが，この自然観察指導員は自然観察会を通じて自然保護教育を行うことを目的として養成されています。「自然観察から始まる自然保護」の活動を目指しています。

20 年間に約 15,000 人もの指導員が誕生し，全国各地で活動しています。この自然観察指導員としての私の体験や活動経験からまとめてみます。

二つ目は

この間，財団法人日本自然保護協会(NACS－J)が，自然観察指導員養成 20 周年を記念して，20 年間の課題を整理し自然保護教育の目的に向かってみんなが元気に活動できるようにするにはどうしたらよいか自然観察指導員の皆さんと一緒に考えようと，大阪の箕面市内で「集い」を開催しました。私の地元ということと，この集いを呼びかけた者として，実行委員会の委員長になってしまいました。

その際，自然保護の活動について，現場からいろいろな意見や報告が出されましたので，その内容を織り交ぜながらまとめてみます。

これらの活動についてまとめるに当たって，私が活動している内容を直接紹介するのでなく，私が，この様な活動を始め出すことになった活動を紹介することで，活動の内容を紹介すると共に，当時一参加者だった私の感じたところも一緒にまとめたいと思いました。

これらをまとめることで私が，今現在活動している私の活動理念のまとめでもあり，現状活動を紹介する事でなくても，何を目指しているかが分かると思われます。

関西自然保護機構業績　第 219 号

活動開始契機としての自然観察会

NACS－Jの自然観察指導員も約15,000人からいると必ず自然科学の専門や野生動植物に詳しいとかいう範囲にとどまらず，いわゆる社会科学の専門から自然には興味もなかったといういわゆる自然に関しては素人という人まで，幅広い人たちが登録されているようです。

私たち家族も，別に自然に興味があったわけでも無いし，何か関わった経験があるわけでもありません。アウトドアブームが始まろうとしていたその前兆の頃，子供も小さかったので，家族でキャンプをしていました。まだまだ今のようなオートキャンプの時代ではありませんでした。あちこちキャンプし歩いて，自分たちのキャンプのあり方にもそろそろ飽きが来ていた頃かも知れません。そんな時期にたまたま訪れたキャンプ場にNACS－J自然観察指導員がサブレンジャー活動の一環として自然観察会を行っていました。興味などありませんでしたが，たまたま参加したのがきっかけとなって私達家族もこのボランティア活動の仲間となり地元大阪でも活動することになりました。今，私たち夫婦と当時小学生だった長男も18才になり自然観察指導員講習会を受け登録してる親子二代の指導員家族です。

もちろんこの自然観察会が，タダの自然のすばらしさや感動を伝えてくれるだけの自然観察会なら私たち夫婦がこんな活動をすることはなかったと思います。この観察会が自然保護教育を目的としていたことはいうまでもありません。その観察会について当時まったくの無関心家族の参加者として思ったままを紹介しましょう。

無関心がのめり込んでいく経過

そのキャンプでは，1週間ほど泊まって，そこを基地に観光地巡りを計画していたのです。

キャンプ初日は疲れをいやすためゆっくりしていました。それで，ビジターセンターでは工作教室など楽しそうな催しをやっていましたので，子供達を子守がてら，自然観察会に参加させたのです。もちろん親は，グースカ寝ていました。どんな自然観察会だったか知りませんが，子供達は大喜びで帰ってきました。

そして，子供達の姿が見えないなと思うと，ビジターセンターの回りにへばりついているのです。戻ってきたと思うと「誰々さん（ボランティアの人）は，いま食事に行った」とか「トイレに行った」と報告してはまた，ビジターセンターに入り浸るという状況で，何が良かったのか分かりませんが，ビジターセンターの虜になっていました。（私たちはこの逐一報告してくれる子供達のことを「お庭番」と呼んでいました。テントにいながら，ビジターセンターの様子が，手に取るように分かるのです。でも子供達にここまで，関心を持たせた，ボランティアたちの活動とは，いったい何だったのでしょうか。驚きませんか？　ついでにこのビジターセンターにへばりついていたのは内のガキ共だけではありませんでした）

昼からの「工作教室」は親が付いていないと参加できないと，内の奥さんが，付いていきました。私は関心ないし，一人でロッジでビールを飲んで，のんびりした時間を楽しんでいたのです。まぁ，普通の楽しみ方です。

その日の夜に，スライド上映があるというので，みんなで，見に行きました。高山植物やキャンプ場周辺の自然を紹介していました。その中の一コマに，笹の葉に切取線のような穴が奇麗に空いており，「どうしてこんな風になったと思う」と聞かれました。私は不思議に思いましたが，分かりませんでした。「虫が食べた穴」とか，会場からは声が出ましたが，「何だろうね」と結局答えがで

ないまま，次の場面に変わってしまいました。気になりましたが，まあ，大したことではありませんでした。

次の日，子供達は早朝のおはようウォッチングに出かけました。あの寝ボスケの子供達が，自分で起きていくのですから，よほど楽しかったのでしょうね。

この日の予定では1日キャンプ場でゆっくりするつもりだったので，私たちも暇だったので，時間つぶしに自然観察会に参加することにしました。実は私にとって運命を変える出来事になるとは夢にも思っていませんでした。

運命を変えた自然観察会との出会い

初めてこの自然観察会に参加しました。

和やかな雰囲気で始まる観察会でした。私たちにとって「シゼンカンサツカイ」って初めての参加です。何をするのか全く分かりません。もちろん自然をじっくり見るというようなことをしたこともないし，辛気くさいものは性に合わないタイプの人間です。もちろん植物や鳥や虫など知識がないし，そんなことには興味もないし，時間つぶしができればという程度で気軽に参加しましたが，初めての雰囲気が何かしら，ほんわかとしていたように思いました。

始まった観察会は，ビジターセンターのすぐ近くで1時間かけてそれこそ300メートルも歩きませんでした。まず，こんなにゆっくり自然の中にいるという経験がありませんでした。

とてもゆったりした気分になったのは事実です。

そこで，「みんなの知っているシラカバってどんなの？」とリーダー。白樺林は私も知っています。すらっと立つシラカバを想像していました。「あの木は，どうして曲がっていると思いますか？」もちろん分かるはずはありません。いろんな人から声が出ていました。「雪の重み」と声が出ていたように記憶しています。「ここは，しめった重たい雪がたくさんつもるから」とリーダー。そんな雰囲気で始まった観察会は，自然に興味の無かった私でもゆったり，自然を見られる雰囲気に浸っていたように思います。

心が自然の方を向いて開いたのでしょうね。

そこで出てきたのは例の笹の葉っぱの切取線でした。昨日のスライドと同じように「どうしてこうなったと思う？」。これこれ，ちょっぴり気になっていたことです。子供達はリーダーの回りで「虫に食われた」とか言ってます。私たち大人はその後ろで遠巻きになんだろうと答えを楽しみにしていました。

リーダー「どうしてこんなにまっすぐ穴が並んでいると思う」。なんだか笹の葉っぱ一つ取ってみても不思議なことがあるんだと思いました。

「こっちの穴と反対側の穴の大きさが違うだろ，どうしてか分かる？折り紙の原理」。なんだろうねと興味がつのります。「お父さんに聞いてごらん，分かるかも知れないよ」とリーダー。おっと折り紙の原理？……。そのお父さんが分からないんだよ。と思いましたが，結局答えを言ってはくれませんでした。そのときから，不思議で不思議でたまらなくなりました。なんなの？。そんな笹の葉っぱは，いっぱいあるよ。困ったものです。

それでまた，夜のスライドに出てみたら，また，例の笹の葉っぱのことが出てきました。でも答えはやはり無いのです。じらされました。よけいに知りたくてたまらなくなりました。

結局次の日に観光地巡りをするはずの予定をキャンセルし，また，観察会に参加することになりました。子供達は大喜び，夫婦ともこの観察会がとても気に入り，雰囲気がいいと話し合っていたのです。これがきっかけとなり，とうとうずるずると1週間あきもせず，観察会に親の方も入り浸っ

てしまったのです。結局楽しいはずの観光旅行は何処も行かず，このキャンプ場の自然教室にべったりと参加するようになってしまいました。

結局笹の秘密は教えてもらいましたが，私は笹がどのような状態から，成長するか知らなかったから，そして，虫も若いおいしいときにかじるという事も知らなかったから，とても感激し感動ました。自然観察ってすごく楽しいし，自然をこんな風に見るということがとても衝撃的でした。今まで体験したことのない自然のおもしろさにふれたようで，キャンプから帰ってすぐに財団法人日本自然保護協会（キャンプ場にパンフレットがあったし，リーダーが宣伝していたから）の会員になりましたし，箕面の国定公園のビジターセンターへも家族で出かけたりしました。箕面のビジターセンターでは観察会はやっていませんでした。それで家族で箕面の山を歩いて，これはキャンプ場にもあったのと同じだと名前はわからないけど同じものを探したりして，家族で自然観察を楽しみ，箕面もキャンプ場のある国定公園と同じものがあるすごいところだと思ったものです。

無関心だった，私たち家族の関心を引いた自然観察会だったのです。

まとめてみると

1. 身近なところの身近なものの自然観察会

観察した場所はビジターセンターの回りで200から300メートルも移動していません。

観察したものも，特別なものでなく，その周辺にあるものを観察しました。たとえばオトシブミや字書き虫の葉っぱ，曲がりくねった木……等。（まぁ，このキャンプ場でないと見られないというようなものでなく，今から思えば大阪の身近なところでも観察できるようなものばかりでした）

自然観察というような事を体験したことのない私にとっては，どれも感心することばかりでした。国立公園という大自然にしかない貴重なものだと思っていました。知らなかったのですね。

2. みんなで見つけて不思議を考える観察会

この観察会では，植物の分類や見分け方を解説したりするような観察会ではありませんでした。おそらく，そういう難しい観察会だったら，子供達も関心を示さなかっただろうし，私たちもその日の時間つぶしで終わっていたと思います。二度と観察会に参加することもなかっただろうし，このキャンプ場へも何度も来ることは，無かっただろうと思います。私たち夫婦の運命も変わらなかったと思います。

観察会の前説明でボランティアの皆さんはこんな事を言っていた様に思います。

「この自然観察会は難しいお勉強会ではありません。植物の名前を聞かれても，おじさん達は意地悪だから教えてあげません。なんだろうという不思議なものや楽しそうなものを見つけたら，おじさん達に教えてください。みんなで一緒に見てみましょう」と。

ボランティアのリーダーが，「どうしてこうなったと思う？」といつも参加者に問いかけて下さって，楽しく考えるのがおもしろかったように思います。

スライド上映でも，参加者と対話しながら，進めておられました。

冬のウサギの足跡が映し出されて，「どっちにいったと思う？」と会場に聞くと子供達から，「あっち」「下の方」とか，声が出て楽しい雰囲気でした。一方的な解説でなかったのが全てにおいて良かったように思います。

3. 子供達を大切にしてくれた観察会

子供達が見つけたものがあったら，その発見をとても大切にして下さっていて，「すごい！　良く見つけたね」と子供達をとてもやさしくほめてくれていました。

ボランティアのリーダーの皆さんは，大人でな

く，子供達に合うような話しかけをして下さっていました。ほほえましく思えたし，私たちも楽しめたように思います。

早朝のおはようウォッチングでは，フィールドスコープを一番背の低い子供に「この高さでのぞける？」と高さを調節していました。

4. むやみに取らずに観察していたのがやさしく思えた

観察会で，手に取ってみるときも「葉っぱさん，ごめんなさい。みんなのために一つだけ見せて下さいね」って，大切そうに一つだけ取ってみんなで観察していました。

トンボやチョウチョを捕まえて観察しても，「チョウチョさん，みんなに見せてくれてありがとう」って放していました。

意外とそういうボランティアの皆さんの一言一言をやさしい気持ちで感じていました。

私たち夫婦も今もこの観察会の内容を，自分たちの自然観察会活動の基本に据えています。

自然観察会の内容で大切なことは自分の心の自然に対する感受性なり，アンテナを自然の方へ向ける，そして心の感度を上げて感受性を育てることだと考えています。それは，自然観察会が自然保護教育を目的としているからです。自然を観察するということは自然保護思想の種をまくために心を耕す作業なのだと思います。

NACS－J自然観察指導員の自然観察会の目的は，自然の知識を学ぶことでも，自然の中で遊ぶことでも無い。自然観察会で自然を観察する事は，それそのものが目的なのではなく，自然保護教育を行うことが唯一の目的なのです。

自然観察会は自然が相手？
自分が活動し始めたのは

来年もこのキャンプ場へ行こうと決めていました。自然観察会のみを楽しみに，どこの観光地も行く予定を入れずに行きました。

でも，自然を観察することが楽しかったり，感動したりしても，それを自分もやりたいとは思いませんでした。自然観察会で自然のすばらしさや感動を伝えて，自然が今までと違って好きになったからといってそれが自然保護に結びつくのだろうか。私の体験からも結びつかないと思っています。

いくつ草花を見たとかいくつ鳥を見たと，自分の知識を増やしていくことに喜びを感じ，バードリスラーと呼ばれるマニアやオタクになって行くのではないか。切手集めやコレクション集めの趣味の世界と同じでは，自然保護にも結びつかないと思います。ましてや自分が活動に参加することなど考えないだろう。

そういう下心をもって自然観察指導員の講習会を受講する人もいます。指導員の腕章を付けて，人の入れないところへあたかも関係者のような顔をして入って，盗掘してくるマニアもいると「集い」の中で報告がありました。

私たち家族が自然観察指導員として活動するようになったのは自然観察会で，自然のすばらしさに感激したからだけではありません。

この２年目に訪れたときに心を動かされたことがありました。

それはボランティアの方がとても生き生きと活動されており，自然を大切にしたいという思いが情熱的に伝わってくるような活動をされていました。その思い・熱意が伝わってくるような観察会でした。

何か信念を持つとか，自分が熱くなれるものを

持っている人生というか，これは自然観察とは関係ないことかも知れませんが，自分にない，生き生きしたものに憧れてしまいました。自然も良かったけれどまた，違う感動を感じ取っていました（この辺になると人生論？）。

キャンプ場の自然も良かったけれどその中で活動されている自然観察指導員の皆さんの熱心さや暖かさも魅力だったのだと思います。キャンプ場のビジターセンターが気に入ったという中には，そのボランティアの皆さんのファンになったということもあります。

自然観察指導員に大切なものって，自分のこの活動にかける思いを情熱を持って生き生きと伝えるというその信念がないと，人の心が動かせないように思います。

そういう活動が自分もしてみたい，そして，このやさしいほのぼのとした雰囲気の中に居続けたいという思いが，「来年はお手伝いさせて下さい」と申し出ることになったのです。

でも何がこのボランティアの皆さんを熱い思いで活動させていたのか，当時の私には，まだ分かりませんでした。いったいこのボランティアの皆さんの信念って何だろう？

その後，大阪に戻り，本格的に観察会に地元で参加したり，ナチュラリスト講座を受講したりしだしたのはこの年からです。

自然保護教育を目的とした自然観察会は，参加した人達の心を耕し，自然保護思想の種をまく活動です。参加者という人に対して自分たちの思いが伝えられるのか，それがNACS－J自然観察指導員の自然観察会ではないかと思います。自然の感動やすばらしさだけが問題なのではない。自然観察会で相手にしているのは，自然ではなく人そのものなのだと思います。

自然を壊すのも人なら守るのも人です。人の問題として自然観察会が関わっているのだと思います。

自然保護教育としての自然観察会

3年目の夏，ボランティアとして，家族ぐるみで参加しました。もちろん子供達も立派なボランティアです。スライド上映の電気のスイッチ係や日誌に付ける人数の勘定係とちゃんと役割がありました。だから，家族4人全員がボランティアだったのです。

いきなり観察会のリーダーをやらされましたが，2年間毎日参加していて，すっかり観察会が，しみこんでいたのですね。前説明で何を言うか，知らぬ間に覚えていたみたいで，突然ながら，やってしまいました。

おしまいには「このキャンプ場は皆さんが帰って，秋，静かになったら，また，動物さん達が戻ってきます。ここは元々動物さん達のおうちです。だから，よそのおうちに来ているみたいに，ごめん下さい，おじゃまします。そんな気持ちでキャンプを楽しんで下さい」なんて，今まで，リーダーが言っていたことは，しみこんでいたようです。

もちろん1回観察会のリーダーをしてしまうと，次の一歩はそんなに難しいことではありませんでした。私の人生が変わったのはこの辺ぐらいからだと思います。

ボランティアの皆さんと熱心に話し合うことがありました。どちらかというと聞かせてもらったり，教えてもらうことばかりでした。

とてもこの難しい議論や話は新鮮で，私と内の奥さんを熱くしてくれたとこは間違いありません。「このすばらしい自然の感動や大切さを伝えたい」そんな思いを知らず知らず持ちながら，夫婦でその年に自然観察指導員の講習会を受講し，2ヶ月後には自分たちの自然観察会を地元箕面で開催し

てしまいました。それは全くキャンプ場でやっていた観察会と同じ趣旨を目指していました。それがそのときの私たちの信念でした。それが何か私たちにはうまく説明できませんでした。体の中にはすっかりしみこんでいました。それをはっきり言い表せるようになったのはそれから，1年後でした。

ボランティアの仲間から，「自然観察会はお勉強会じゃないというのは分かっていると思うけど，お遊びでもないよ。何のためにするか考えてみて」という宿題が，出されてしまいました。そのときに初めて自然観察会を開く目的は「自然保護教育としての自然観察会」なのだとはっきり意識できたのでした。でも何の抵抗もなく，受け入れることの出来る観察会のあり方でした。

人生を変えた自然保護の活動

旅先のキャンプ場で初めて参加した観察会にでたとたんに私たち夫婦の人生が変わったわけではありません。何年もかかって活動するようになったのですが，そのきっかけがその自然観察会からだったことは間違いない事実です。

この自然観察会のあり方が，私たち夫婦の人生を変えるぐらい大きな出来事だっただけに，何のために開く自然観察会かということについては，特別なこだわりを持っています。

その後大阪にも自然観察指導員の連絡会を作ろうと言い出したのも私たち夫婦でした。そして，その中で，常に私たちの思いを伝え続けてきました。「NACS－J自然観察指導員の自然観察会の目的は何か」。

私たちが開催している地域の身近な自然観察会でも，貫かれているところです。目的がはっきりしているから，私たち夫婦が自然観察会のことで会話することのほとんどは，あの人は変わってきたとか，あの人が自然観察会の時良いことを言っていたとか，人に関わることばかりで，あまり，あそこの自然が良かったとか，あれがみれるとは思わなかったというような自然に関わる会話は，少ないように思います。私たちが元気にやれるのは自然がすばらしいからだけでなく参加者がすばらしいからではないかと思っています。

自然観察会が自然を見ることではなく自然保護教育が目的であれば私たちの関心が自然ではなく人に注目されるのは当たり前のことです。

だから私たちは自然観察会で，特別な自然や珍しいものを追いかけたりはしません。自分たちの住むいつも見続けることの出来る，身近な自然を観察しています。国定公園がありながらその回りの田んぼや畑，お寺の境内で自然観察会をしています。

そして私たちのフィールドで起こった出来事に市役所に要望所を出したり話し合って，自然を残して頂いたり，自然保護の活動にも関わりだしたのです。

「自然を大切にしたい」その思いを伝え続けたい。自分の信念を生き生きと情熱を持って伝え続けたい。そんな生き甲斐をキャンプ場のボランティアの皆さんから教えていただいたと思います。

自然保護教育としての自然観察会は，モノサシを持ってもらうこと

自然観察会も最近は一般化し，いろいろな目的の自然観察会が行われてきています。お勉強会やカルチャー，自然教育を目的とした自然観察会。やたらと外国の環境教育プログラムを行ったりゲームを楽しむことが目的のお遊びの自然観察会。リクレーションにされてしまった自然観察会。いろいろな観察会に対して自然観察指導員の目指す自然観察会は，自然保護教育を目的とした自然観察

会です。ほかの自然観察会と決定的に違うところです。

いくつ何が見られた，何がいくつ鳴いていた，そんなことが観察会のまとめでやられることに，それがいったい何なのと疑問を投げかけたくなります。自然のマニアやオタクを作ることが大切なことなのか。採取マニアに協力することが自然観察会のすることなのか……。いったい自然観察会で何がやりたいのか？　その目的に疑問を感じる自然観察会がたくさんあるのも現実です。

とかく自然教育に関わる自然観察会で自然を相手とされているのと決定的に違います。私たちの自然観察会で，自然の知識がないと自然観察会が出来ないことはありません。

ところで自然保護教育を目的とした自然観察会とは何かということがあります。自然観察会は「自然を守ろう」という押売の自然保護教育の場ではありません。私の考えは，自然の現場で現物の自然を観察して，人の自然に対する感性をのばし，その自然が自分たちにとって何かを考えることの出来るモノサシを持ってもらうことだと考えます。

ペンペン草の生えた雑草だらけの広場を見て，こんな所があるなら舗装して，駐車場にすれば今，社会問題になっている違法駐車がなくなるではないかと考えるのか，いろいろな動植物のいる原っぱが身近にあり，子供達が自然の中で遊べるところをおいておくということは大切と考えるのかはその人の価値観の基準を計るモノサシの問題と思います。

自分たちが見続けている自然に何かあったとき，良いのか悪いのか，どうすべきなのか考えたり判断できる自分なりのモノサシを持ってもらうことだと思います。その後その人がどういう行動をとるのかはその人次第だと思います。

地域の身近な自然を見続けることから

自然観察指導員の目指す自然観察会は，地域の身近な自然を見続けることを大切にしようとしています。その地域の自然を一番良く知っている，そして，その地域で自然観察会を開催しているというのが，地域の自然の番人として，見続けることにとても意義がある活動です。自然のメッセージをいち早く感じてくれる自然観察指導員がそこにいるということが自然保護の活動にとって大切なことです。見続けることでその地域の自然の課題が見えてくるし，その自然に対する自然観察指導員なりのビジョンを持つことが大切です。

最近話題になっている海上の森（愛知万博の会場問題とその後の住宅開発），そして徳島の第10堰を壊して，新たに可動堰を作ろうとしている問題。この地域でも自然観察会を進めていた，自然観察指導員の主婦達が，降って湧いたようなビッグプロジェクトを前に，自然を守りたいという思いから活動しています。「自然観察から始まる自然保護」の活動は今いろいろなところで普通の人たちの手で広がってきています。

徳島でも第10堰を守ることを訴えるために観察会を開いているのではなく，その場所の自然を観察したり，楽しく河原で遊ぶ中で，この場が無くなるということが自分たちにとってどういうことかを考えてもらいたいということで開かれています。

「特別な自然だから守りたい」，「イヌワシを守る」，「貴重種があるから」とそれを守ることが大切なのではないと思っています。イヌワシなどがいるということは，保護活動の戦術上の取り組みとしては良いネタなのかも知れませんが，イヌワシよりもそういうものをはぐくんでくれている，何でもない森の方が大切なのだと思います。私たちが守りたいと考えているのはそういう普通の自

然なのです。特別な湿原やイヌワシだけを守ってもその回りのつながりを見なかったらそれそのものも守ることが出来ないからです。逆に言うとその特別なものがなくなってしまったら，その回りのありふれた自然を守る口実が無くなるような自然保護なんてナンセンスだと思います。

そこに何があるという科学的根拠だけが自然を守るために必要なのではないと思います。その自然に特別な思いを寄せる人たちがいる，大好きと言ってくれる人たちがいるということも大切なのだと思います。今までの環境アセスでは何があるか科学的な調査が主流でしたが，新しいアセス法では，「自然とのふれあい」も調査の対象となってきたことは評価すべき事だと思います。ただ，その評価を何人の人が利用したかという数字だけの評価に終わらせてはならないと思います。ふれあいの内容や人との関わりが評価の対象となることが大切で，これからの私たちの活動にかかってくると思います。

私たち自然観察指導員の「自然観察から始まる自然保護」の活動は現場で現物の自然を見続けることから始まります。いわゆる政治的な反対運動としての保護運動とは違いがあると思っています。それだけそこの自然を見ているのだろうかと思う反対運動もあるようですが，そういう運動とも違うと思います。

自然を知り尽くしている人たちが どうして自然保護に非協力なのか

「集い」を準備する実行委員会の席で自然観察指導員から怒りにも似た，学者・研究者への批判が飛び出しました。NACS－J が地元の自然観察指導員と連携して取り組んでいる自然保護の問題で，地元の有力な大学の学者の不可解な発言についてです。

誰が何を確認しようと「標本に基づいたフロラリスト」による裏付けがないと「調査者が確認しない限りリストから削除」するという内容です。

地元の自然観察指導員の皆さんが，何年もその地域を自然観察して，調べられたことについてその学者への質問に対する回答でした。自分が確認できていないものは無いというのは学者として，慎重な姿勢なのかも知れませんが，そんなに簡単に無いと言い切れるのかというのも不可解なものです。また，彼の標本集めのために在処を教えることは出来ないというのが地元で活動している皆さんの思いのようです。

学者や研究者の中には，地域の自然を知り尽くし，見続けていてもあくまでもタダの研究対象で，その地域の自然破壊に興味を示さないという指摘が相次ぎました。どうやらその方だけではないようです。

学者や研究者といわれる専門家の方全てが，自然保護に理解がないというわけではありませんが，同じ地域を見続け，地域の「自然観察から始まる自然保護」の活動を進めている人たちの間からは，「学者は研究対象を大切に思わないのか」という疑問が出てくるのも，この現状を見ていると仕方ないことかも知れません。

また，自然保護を標榜する学者・研究者であっても，自然観察会では，専門家の立場から自然教育が中心になり，自然保護を別のもののように区別されているように伺える部分もあります。

また，同じ会議の中で，自然を良く知っているマニアの人たちは自然保護に理解がないだけでなく自分たちのお目当てのためなら他の自然を潰すことも，餌付けすることも平気でやってしまう。

そんな問題点も出てきました。自然のすばらしさを伝えるだけの自然観察会では，そういうマニア作りに協力してしまうことになりかねない。

いったい何のため（目的）に自然観察会をする

のか。すばらしい自然を観察して感動して，だからいったいそれがなんなのか。鳥の鳴き声と名前が一致して，その鳥がどういう生態で暮らしているのか解説を聞いて，だからそれがなんなんだ！自然教育では自然保護にはつながらない。

さいごに

キャンプ場の自然観察指導員の仲間が私たち夫婦に教えてくれたものは，自然の知識ではなく自然の大切さとそのための活動（自然観察から始まる自然保護）でした。

自然観察指導員の自然保護教育を目標とした自然観察会は何も私のように一緒に活動してくれる仲間を作ることではなく，自然の大切さを考えてくれる人たちを増やす種まきの活動です。その種がどう育つかは，その人次第ということかも知れませんが，しっかり種をまかれて，私たち夫婦は，自然観察指導員の側に成ってしまったという存在が大切なことと思います。

その体験を持つ一市民，全くの素人として，今，自然保護教育の目標に向かって活動を続けています。私の人生を変えたこの体験は，今の私の活動の中の大きな精神的支えになっています。そんな思いで活動している全国の自然観察指導員の仲間とネットワークを張り巡らしながら地域の自然の課題から連なるバックボーンの問題まで，活動を進めているのが今の私です。

私のような全くのミーハーの観光客が，自然保護に関わるようになったこの自然保護教育としての自然観察会についてまとめてみました。一市民，全くの素人の自然保護活動への取り組みの考え方や思いが何かの参考になればと思います。

この様な思いを発言する機会を与えて下さいました，関西自然保護機構の関係者に感謝致します。

ご意見・ご質問は
〒562-0005 大阪府箕面市新稲 6-21-2
E-mail : http://www3.justnet.ne.jp/~takashi_honda/takash_honda@ma3.justnet.ne.jp
大阪府自然観察指導委員連絡会事務局
みのお山自然の会事務局
本多　孝